

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	老年看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	実習施設
担 当 教 員	三浦 純子	実務経験と その関連資格	医療施設にて看護師として勤務していた。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>健康障害を有する老年期にある対象およびその家族を総合的に理解し、尊重しながら対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を習得する。加齢により起こる症状、特有の疾患・病態および健康について理解し、日常生活機能をアセスメントする能力や保健活動の視点を養い、老年期にある対象の健康上の問題解決のための方法を理解する。人生のゴールに近い対象の生命と生活の安寧を考えつつ、対象のもてる力でその人らしく生活ができるような援助について考え実施する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>ルーブリック評価表による能力評価【意欲・関心・態度】①チームの一員として、学生としての自覚と責任を持った行動をとることができる。 ②自己の課題を明確にし、主体的に学習できる。【思考・判断】①老年期にある対象の健康障害及び生活課題についてアセスメントができる。②老年期にある対象の自立・自律を尊重し看護上の課題について看護計画を立案することができる。③老年期にある対象の状態や回復過程に応じて、科学的根拠に基づいた援助方法で計画を実施し、評価することができる。【技能・表現】①老年期にある対象(や家族)と人間関係を形成することができる。②対象の健康問題と生活機能の視点においた看護援助が実践できる。③行った看護援助に対してふりかえり、次に活かすことができる。【知識・理解】①対象のこれまでの生活を捉え、身体的、精神的、社会的側面を統合的に理解することができる。②保健・医療・福祉チームの一員としての看護職の役割と連携について理解できる。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>老年看護学概論、老年看護・病態・疾患論</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>実習オリエンテーション①実習要項説明 ②実習記録について ③実習マナー ④カンファレンスについて ⑤実習事前学習 ⑥ビジョンゴールシートの記載) 実習後は、実習の学びをまとめ振り返りを行う</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>実習要項を熟読し、必要な事前学習をして臨む。バイタルサイン測定、清潔・食事・排泄・移動援助など基本的な看護技術についても自己演習し復習しておく。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	病棟のオリエンテーションを受け、病棟の概要や役割について知る。受け持ち患者に挨拶し尊重した態度でコミュニケーションがとれる。	所持している教科書・参考書、事前学習	実習要項を読み、実習で何を学ぶのかをイメージする。ビジョンゴールシート記載。実習要項に沿った事前学習。	
	各コマにおける授業予定	病棟のオリエンテーションを受ける。受け持ち患者の決定。受け持ち患者・家族への挨拶、コミュニケーション、情報収集。				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の生活史や価値観を理解し、援助的コミュニケーションをとりながら看護計画立案に向けて情報収集ができる。	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者の疾患、症状、治療、発達課題や加齢に伴う三側面の変化について学習。見学、実施した援助について学習。	
	各コマにおける授業予定	受け持ち患者とのコミュニケーションやカルテから情報収集 受け持ち患者の日常生活援助の見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、清潔・排泄・食事援助など)				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象者とのかかわりを通して加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴や疾患、行っている治療などについて把握できる	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者の疾患、症状、治療、発達課題や加齢に伴う三側面の変化について全体像に記録する。見学、実施した援助について学習。	
	各コマにおける授業予定	受け持ち患者とのコミュニケーションやカルテから情報収集 バイタルサイン測定、環境整備の実施 受け持ち患者の日常生活援助の見学、実施(清潔・排泄・食事援助など)				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、加齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえた看護計画が立案できる	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者の情報から全体像を捉え、アセスメントし、状態に沿った看護計画を立案し記録として整理していく。	
	各コマにおける授業予定	受け持ち患者とのコミュニケーションやカルテから情報収集 バイタルサイン測定、環境整備の実施 日常生活援助の見学、実施(清潔・排泄・食事援助など) 看護計画について指導者の助言を受け、修正を行う				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、加齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえた看護計画が立案、実施できる	所持している教科書・参考書、事前学習	計画している援助についての事前学習。当日見学した検査、治療、援助などについては事後学習	
	各コマにおける授業予定	立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、加齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえた看護計画が立案、実施できる	所持している教科書・参考書、事前学習	計画している援助についての事前学習。当日見学した検査、治療、援助などについては事後学習
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	前半の実習で得られた学びや後半の課題を明確にする。	所持している教科書・参考書、事前学習	計画している援助についての事前学習。当日見学した検査、治療、援助などについては事後学習 評価表 自己中間評価
		各コマにおける授業予定	前半の実習で経験したことや体験したことをカンファレンスで話し合い、意見交換をする。中間自己評価を行い振り返り、後半の課題を見出す。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生活を支える多職種の役割や地域連携について理解する。チームの一員としての看護職の役割と連携について理解できる。	所持している教科書・参考書、事前学習	高齢者を支える多職種の連携やそれぞれの役割、社会資源、地域連携についての学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者に関わっている多職種の連携や必要とする社会資源について確認する。 立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、加齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえ た看護計画が立案、実施、修正ができる	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者の日々の身体的変化や、行われている治療、精神面、社会面を捉え必要に応じて計画を評価修正する
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、加齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえ た看護計画が立案、実施、修正ができる	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者の日々の身体的変化や、行われている治療、精神面、社会面を捉え必要に応じて計画を評価修正する
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の疾患、回復過程、加齢に伴う変化などを考慮し個別性を踏まえ た看護計画が立案、実施、修正ができる	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者の日々の身体的変化や、行われている治療、精神面、社会面を捉え必要に応じて計画を修正する
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画に沿って、対象者の状態や回復レベル、生活に応じた看護を実践する(安全・安楽・自立)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習で得られた学びを明確にして共有する。今後の自己の課題について述べるができる。	所持している教科書・参考書、事前学習	アセスメントシート、全体像、病態関連図、看護計画評価を記録として整理する。老年看護学実習での学びをまとめる。 評価表 自己評価
		各コマにおける授業予定	実習で経験したことや体験したことをカンファレンスで振り返り、ビジョン・ゴールに対しての成果・評価の発表を行い、意見交換をする。		